

第 2 期明石文化芸術創生基本計画(素案)への
意見公募の結果について

2022 年（令和 4 年）12 月 15 日（木）から 2023 年（令和 5 年）1 月 14 日（土）まで行った意見公募の結果について、以下のとおりお知らせします。

1 募集結果

8 名の方から、20 件のご意見をいただきました。

2 意見の概要及び市の考え方

いただいたご意見とそれらに対する市の考え方は以下のとおりです。

※ご意見は趣旨を損なわないよう要約しています。

No.	意見の概要	市の考え方
文化芸術活動充実のために環境整備について		
1	P.12 施策②について、文化芸術に出会い、触れる場所が明石駅周辺に集中しているので、市民センターに鑑賞・掲示スペースを作って欲しい。また、文化博物館の分館を作って欲しい。	市民が身近に文化芸術に触れる機会の確保は大変重要と考えており、町なかのオープンなスペースも活用するなど、身近な場所で文化芸術に出会い、触れる機会を創出できるよう取り組みます。
2	明石公園を活用し、展覧会や彫刻展を行うなど、将来、野外アート公園を目指して欲しい。	
3	既存施設はもとより、神社、仏閣、公園、民間の倉庫、酒蔵等を利用した「文化の場づくり」を応援し、身近な場所での文化芸術との出会いと創出に期待したい。 また、既存施設においても階段や玄関スペース等を活用し、幅広い芸術活動が期待できる。	
4	大型打楽器（ティンパニ、大太鼓、鍵盤打楽器、ピアノ、ドラムセット等）が常設され、60 名程度で合奏の練習ができる施設を作って欲しい。	ウィズあかしやパピオスあかしには、少人数の練習場所を設けていますが、楽器の充実やスペースの確保は課題も多いことから、今後の検討課題として考えています。

5	<p>市民会館が老朽化しているので、市民会館の未来（大規模改修や建替・移転など）を示してもらいたい。</p> <p>また、明石市民会館や西部市民会館はホールがあるのに駐車場が少なすぎると思います。</p>	<p>明石市民会館は築 50 年以上経過し老朽化が進んでおりますが、耐震化工事や設備の更新・修繕により、施設の安全面に対応しながら運営を続けているところです。大規模改修や建替、駐車場の整備については、多額の工事費が必要となり、市全体の公共施設整備の中で検討していきます。</p>
6	<p>P14 施策②について、「文化施設の機能、設備の拡充や利便性の向上」とあるが、そもそも施設の数足りていないのではないか。拡充や利便性向上とともに、施設の増加に向けた取組も必要。（市民ホールの閉鎖、市民会館の老朽化やバリアフリー未対応など）</p>	<p>文化芸術活動の推進においては、活動場所の確保が必要と考えており、市民会館等の既存の文化施設だけでなく、身近にある様々な施設を活動や発表の場として活用できるよう、本計画に位置付けています。</p> <p>また、市民会館の老朽化に伴うバリアフリー化や空調設備等の課題についても、利用者が安全安心に利用できるよう、優先順位をつけながら必要な修繕工事等を行います。</p>
文化交流の促進と連携体制の強化について		
7	<p>明石文化国際創生財団が持っているネットワークを駆使し、地域で活動する団体らをサポートし、コーディネートするなどは素晴らしい取組だと思います。文化芸術に携わるのであれば財団にあたってみれば何とかなるかも？みたいな存在である「中間支援組織であること」をもっとアピールすべきだと思います。</p> <p>一方で市は実際の文化芸術にどのようにアプローチすることになるのでしょうか。</p>	<p>中間支援組織である明石文化国際創生財団は、コーディネートや情報発信、相談業務、文化芸術イベントの実施など、本市の文化芸術事業の中核的な役割を担っています。財団のこれらの取組については、財団の機関誌やホームページなどを通じて広報活動に努めていきます。</p> <p>市においては、文化芸術に係る政策全般の企画や立案を担いながら、中間支援組織への財政支援等を行うとともに、関係機関等との連携強化に取り組むことを本計画に位置付けています。</p>

8	<p>P.14 施策③④について、文化芸術事業は明石文化国際創生財団だけでなく、市内のさまざまな公共機関や民間団体が行っているため、事業の内容を調整し、それぞれが持つノウハウを共有する仕組みの構築が必要。観光協会、天文科学館、福祉センターなどの他のジャンルの機関とも一体となって事業や施策を勧められるよう後押しがあればよい。</p>	<p>様々な機関・団体等が連携して文化芸術活動を行うことは必要であり、本計画に他分野との連携を強化することについて記載していますが、ノウハウを共有する仕組みの構築は連携を強化するうえで大変効果的ですので、ご意見を踏まえ、その考え方を本計画に追記します。</p>
9	<p>市、財団、指定管理者及び文化団体が太いパイプでつながり、良きパートナーとして推進していくことを願う。</p> <p>施策を実施する組織は、職員一人ひとりにこの計画を十分認識させ、それぞれの役割分担をはっきりさせるとともに、関連団体や地域住民にもワークショップや勉強会を通じて輪を広げていく必要がある。</p>	<p>本計画が関係機関や団体等に理解されるよう周知を図るとともに、連携しながら取組を進めます。</p>
10	<p>施設や団体に専門的な知識を持ったコーディネータとしての仕事を位置づけ、市民からの相談に対して、できることからお手伝いするという姿勢を示すよう、施設職員の意識改革が必要と考える。</p> <p>また、施設は地域との連携のため、市民や地域の窓口として、広聴的な機能を果たすべき。</p>	<p>文化施設の機能向上や地域との連携は大変重要であり、市民会館等の指定管理者が有する人材や情報等を活用しながら、市民ニーズの把握に努めます。</p>
11	<p>明石文化国際創生財団について、市民会館指定管理者との共催、協働事業も必要だが、双方で同じような事業をするのではなく、ある程度役割分担が必要ではないか。</p> <p>財団の特性を活かし、継続的な事業や、多様な文化団体のアーティストによる異文化交流イベント、国際交流の視点を入れた事業等を実施することができると考える。</p>	<p>事業の実施においては、明石文化国際創生財団と市民会館指定管理者のそれぞれが有する特性や強みを生かしながら取り組みます。また、財団の特性を生かした異文化交流や国際交流等の事業についても、継続して実施できるよう支援していきます。</p>
12	<p>中学校吹奏楽部は特別予算として3年毎に60万円の交付を受けているが、楽器が高額なため購入するには苦しい状況。家庭の事情で楽器を買えず吹奏楽を諦めるということが無いよう、吹奏楽部の楽器を充実させるために毎年予算をいただけるようにして欲しい。</p>	<p>子どもたちが置かれた環境に関係なく、広く文化芸術に触れることができるよう、教育委員会等の関係機関と連携しながら、必要な方策を検討していきます。</p>

13	ボランティアの演奏活動について、活動団体と受入れを希望する団体をつないで、活発な市民による芸術活動を推進する方法を探るべきである。明石文化国際創生財団は、ハローワークのような存在になり、活動団体と受入団体の橋渡しをする方法を考えて欲しい。	本市における文化芸術の振興には、中間支援組織である明石文化国際創生財団が担うコーディネート機能が重要と考えており、今後、更にその機能が向上し充実していくよう取り組みます。
14	明石文化国際創生財団は明石の文化を全て担うというような意気込みを見せて、明石の文化のコア的な役割を果たして欲しい。	文化芸術を充実するうえで、中間支援組織である明石文化国際創生財団の役割は重要であり、今後より一層その役割を果たすことができるよう取り組みます。
地域特有の文化資源の継承と発展について		
15	小、中コミセンとの連携で、地域文化に携わって欲しい。出前講座も充実させて欲しい。	これまでも中学校コミセン等で連携した取組がなされているところですが、文化資源を継承する上で、地域との連携は重要ですので、今後より一層の強化に努めます。
16	明石市出身の作曲家「菅原明朗」を明石市の文化芸術の象徴として大きく取り上げ、その功績を知ってもらえるよう広く発信してもらいたい。(計3件)	地域の歴史・先人について学ぶ機会を提供し、郷土への理解を深め、愛着を深めることは大切と考えています。菅原明朗は、日本の近代音楽に大きな功績を残した作曲家であり、市民に広く知っていただけるよう取組を検討していきます。
17	市民集団から盛り上がっていくイベントを発掘し、育てていく必要がある。そのためには、中高年の活力を活かして、イベントの手伝いをする文化芸術の応援隊のようなボランティア集団から始め、将来的には企画・運営に携わっていただけるような人材を育成する。	市民ボランティアによる文化芸術活動への参加は大いに期待しているところですので、今後も人材の確保につながる取組を進めます。
次世代の育成について		
18	市内在住の若いアーティストに対し、市内で活動していくためのサポートを充実させるべきである。また、一流アートの鑑賞機会の提供も大切である。	次世代の育成を進めるうえで、若手アーティストへの支援や一流アートの鑑賞機会の提供は大変重要と考えており、中間支援組織である明石文化国際創生財団においてその取組が積極的になされているところです。今後もその取組を継続し、次世代の育成に資するよう努めます。